

国際言語文化研究科 全学向け授業案内

2007年度全学向け「外国語特別研修コース」及び 「セミナー」について

国際言語文化研究科全学向け授業は「外国語特別研修コース」及び「セミナー」からなっています。「外国語特別研修コース」はいわゆる演習を主体とした少人数による外国語授業、「セミナー」は外国語の学修を通して言語文化の知識を養い、異文化理解を深めることを目指す授業です。皆さんの積極的な受講を期待しています。

〈学部学生の皆さんへ〉

「全学向け授業」として登録する場合は、本冊子に従って手続をしてください。全学教育科目の「言語文化Ⅱ」として登録する場合は、教養教育院作成の「履修に関する注意事項」に従って手続をしてください。

I. 授業科目（授業時間割表及び授業要覧は9ページ以降に掲載）

外国語特別研修コース

科	目	開講期間		科	目	開講期間	
		前期	後期			前期	後期
英	語	Level 2 a	○	ドイツ語	Level 1 a	—	
		Level 2 b	—	フランス語	Level 1 b	○	
		Level 3 a	○	ロシア語	Level 2 a	—	
		Level 3 b	—	中国語	Level 2 b	○	
				スペイン語	Level 1 a	—	
				朝鮮・韓国語	Level 1 b	○	
				ポルトガル語	Level 1	○	
				イタリア語			
			アイヌ語				

注) Level 1, 2, 3 は、この順で授業内容が高度になります。

セミナー

英	語	科	目	開講期間	
				前期	後期
			言語文化セミナー	○	○
			言語表現セミナー	○	○

II. 授業期間・休業日・休講日・授業時間帯

1. 授業期間

前期：2007年4月10日(火)～2007年7月20日(金)

後期：2007年10月1日(月)～2008年2月1日(金)

2. 休業日

夏季休業期間：2007年8月8日(水)～2007年9月30日(日)

冬季休業期間：2007年12月28日(金)～2008年1月7日(月)

3. 休講日

名大祭期間：2007年6月7日(木)午後～6月10日(日)

大学入試センター試験実施準備：2008年1月18日(金)(予定)

4. 定期試験期間

前期：2007年7月25日(水)～8月7日(火)

後期：2008年2月4日(月)～2月18日(月)

5. 授業時間帯

第1時限 8:45～10:15

第2時限 10:30～12:00

第3時限 13:00～14:30

第4時限 14:45～16:15

第5時限 16:30～18:00

III. 受講対象者

受講対象者は、本学の学部学生、大学院生、研究生等及び本学職員です。

ただし、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生は受講できません。

IV. 休講等

各授業科目の休講、教室変更、授業に関することは、国際言語文化研究科棟1階掲示板(玄関左側)で通知します。

V. 成績の通知

成績評価の通知は以下のとおり行います。

1. 学部学生、大学院生、研究生等については、各部署長あてに通知します。
2. 職員については、本人に通知します。

VI. 受講の辞退

事情により学期途中で受講できなくなった場合には、国際言語文化研究科事務室で交付される所定の「全学向け授業辞退届」を、必ず授業担当教員に提出して下さい。この手続きを行わずに受講放棄すると、以後、受講を認めないことがあります。

VII. 受講申込み手続き

1. 外国語特別研修コース

英語

1. 受講申込カード(黄色の3連カード)配付場所及び申込場所

配付場所 国際言語文化研究科棟1階 玄関付近(5ページ配置図参照)

申込場所 国際言語文化研究科棟1階 事務室(5ページ配置図参照)

2. 申込期間及び時間 期間：2007年4月5日(木)、6日(金)

時間：9:00～12:00、13:00～17:00

*申込期間以降は受け付けませんので注意してください。

3. 受講申込カード記入・提出について

受講希望者は、「受講申込カード」に必要事項を記入のうえ、申込期間中に国際言語文化研究科

事務室に提出してください。特に以下の①～③については、注意事項をよく読んで記入してください。提出の際には、本人保存用及び教員保存用の紙片を返却しますので、教員保存用の紙片は第1回目の授業時に授業担当教員に渡してください。また、本人保存用の紙片に記載してある受講受付番号により受講調整結果を掲示しますので、結果の確認には必ずその紙片を持参してください。なお、受講する授業が決定した後も、授業期間中はずっと本人保存用紙片を保管しておいてください。

①『TOEIC点数（または自己採点）』：

「英語 Level 2」及び「英語 Level 3」の受講を希望する人は全て、TOEIC 公開試験あるいはその模擬問題集によって得た自分の英語力の点数を受講申請の際に記入せねばなりません。TOEIC 受験、あるいはその模擬問題集の採点は各自で行ってください。TOEIC以外の試験の点数は不可。

TOEIC 模擬問題集として、例えば以下のものが出版されています。

- (1) 『TOEIC公式ガイド&問題集Vol.2』（国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会、2002年）2,940円
- (2) 岩村圭南（著）『TOEIC テストまるごと模試600問-CD 2枚付き』（アルク、2004年）2,310円
- (3) 『TOEIC テスト完全攻略』（旺文社デジタルインスティテュート、2001年）7,140円
- (4) 『TOEIC テストスーパー模試シリーズ470点攻略』、『TOEIC テストスーパー模試シリーズ600点攻略』、『TOEIC テストスーパー模試シリーズ730点攻略』（以上三点、旺文社デジタルインスティテュート、2003年）7,140円

* TOEICスコアの自己採点には、名大生協が実施している年4回（5, 7, 11, 1月）のカレッジTOEICも利用できます。

②『希望する級』：

TOEICあるいはその模擬問題集によって知り得た自分の英語力に応じて、「英語 Level 2」あるいは「英語 Level 3」のどちらかを選択し、申請してください。点数とLevelの対応は以下のとおりです。

英語 Level 2 受講者の英語力：TOEIC 650点以上～749点以下

英語 Level 3 受講者の英語力：TOEIC 750点以上

なお、各々のLevelの点数（TOEIC）に満たない場合は、受付できません。さらにTOEIC 750点以上の場合、Level 2では受付できませんので、Level 3を申し込んでください。

③『希望するクラス』

②で決まったLevelの中から受講したいクラスを3つまで。記入した希望クラスまでで調整できなかった場合、同じレベルの任意のクラスに振り分けられることがあります。

4. 受講調整結果の発表

受講希望者が受講可能人数を超える場合は、提出された「受講申込みカード」のデータをもとに受講調整を行い、各授業の受講者を決定します（決定後の問い合わせには応じません）。受講調整の結果は、4月9日(月)9時00分(予定)までに国際言語文化学科研究棟1階掲示板(玄関左側)に掲示します。

定員に限りがあるので、受講希望者が全員受講できるとは限りません。

5. 第1週の授業を無断で欠席した場合は、受講放棄とみなしますので、ご注意ください。この件に関する質問に対して、国際言語文化研究科事務室は対応しません。

6. 決定された授業からの辞退は認められません。

7. 外国語特別研修コースの英語は、級を問わず一期に一クラスしか受講できません。

英語以外の外国語

全学向け授業としては、第2週〔4月17日(火)、18日(水)、19日(木)、20日(金)、23日(月)〕から

開講します。

受講手続きは、次のとおりです。なお、希望者が多数の場合は第1回の授業時に受講調整を行います。

1) 受講申込みカード配付場所

国際言語文化研究科棟1階（5ページの配置図を参照）

2) 配付期間及び配付時間

期 間：2007年4月17日(月)～23日(月)

時 間：平日 9：00～17：00

3) 配付カード

青色（三連）

4) 受講登録手続

第1回目の授業時（4月17日(火)～23日(月)）に受講が許可された授業科目について、「受講申込みカード」のうち教員保存用の紙片を授業担当教員に渡し、事務室保存用の紙片を国際言語文化研究科事務室に提出してください（締切厳守）。

期 間：2007年4月17日(火)～4月24日(火)

時 間：平日9：00～17：00

2. セミナー

第1週〔4月10日(火)、11日(水)、12日(木)、13日(金)、16日(月)〕から開講します。

受講手続きは、次のとおりです。希望者が多数の場合は第1回の授業時に受講調整を行います。なお、全学教育科目（学部生授業）として登録する学生が優先されます。

1) 受講申込みカード配付場所

国際言語文化研究科棟1階（5ページの配置図を参照）

2) 配付期間及び配付時間

期 間：2007年4月10日(火)～4月16日(月)

時 間：平日9：00～17：00

3) 配付カード

青色（三連）

4) 受講登録手続

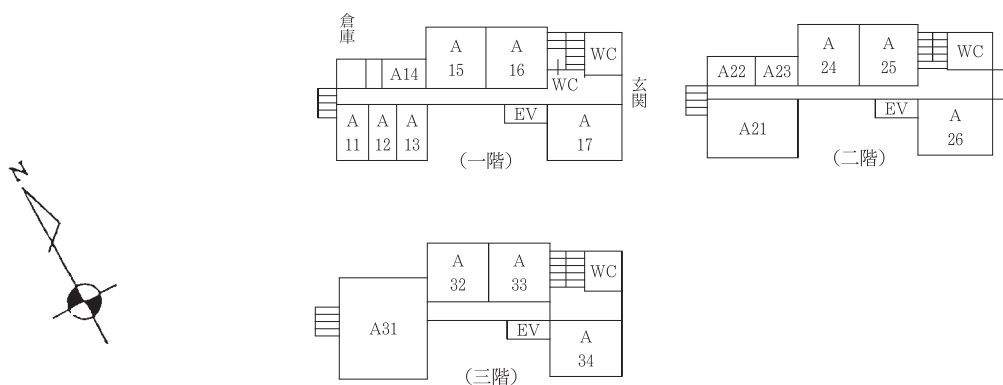
第1回目の授業時（4月10日(火)～16日(月)）に受講が許可された授業科目について、「受講申込みカード」のうち教員保存用の紙片を授業担当教員に渡し、事務室保存用の紙片を国際言語文化研究科事務室に提出してください（締切厳守）。

期 間：2007年4月10日(火)～4月17日(火)

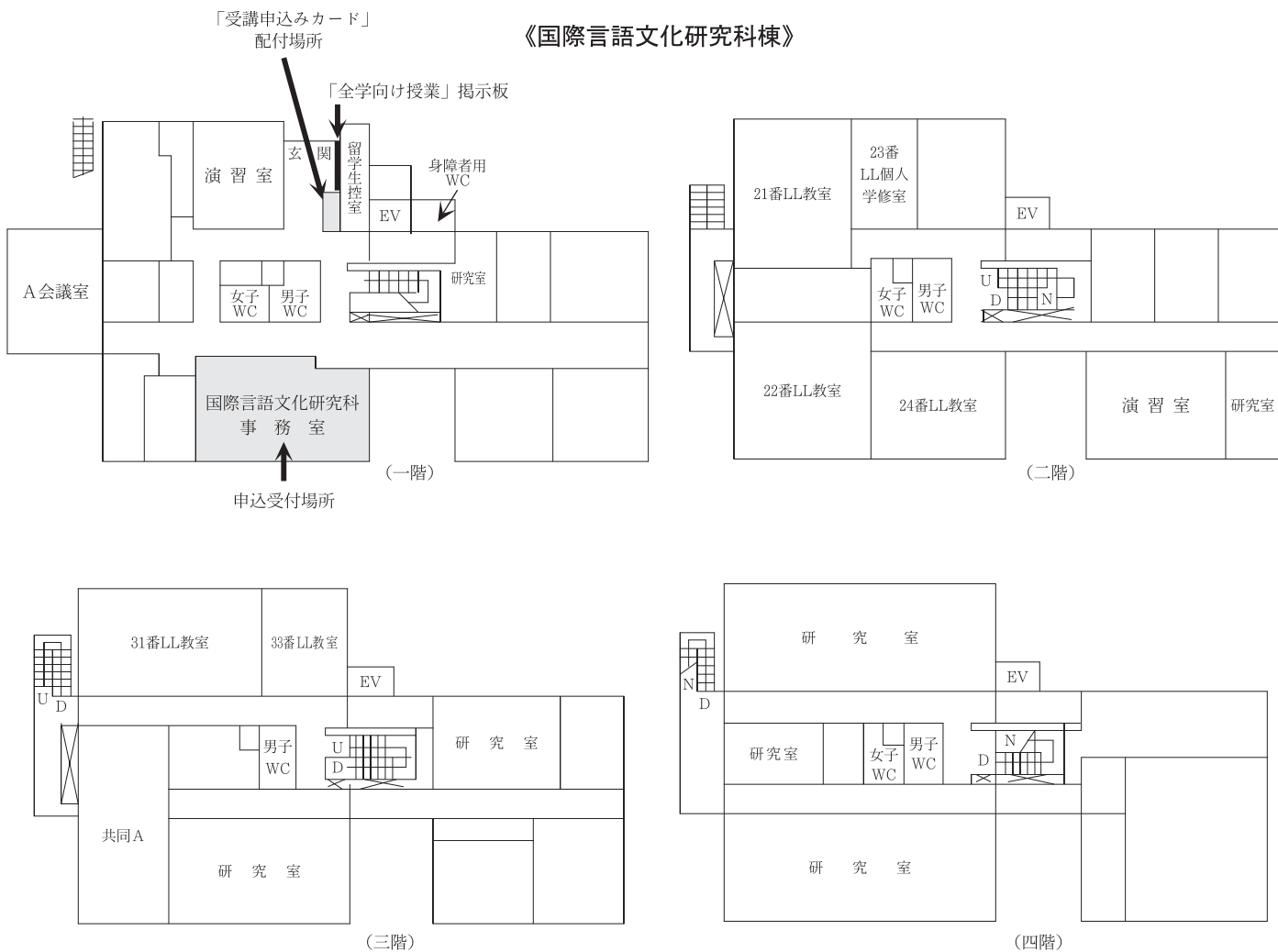
時 間：平日9：00～17：00

全学教育棟及び国際言語文化研究科棟教室配置図

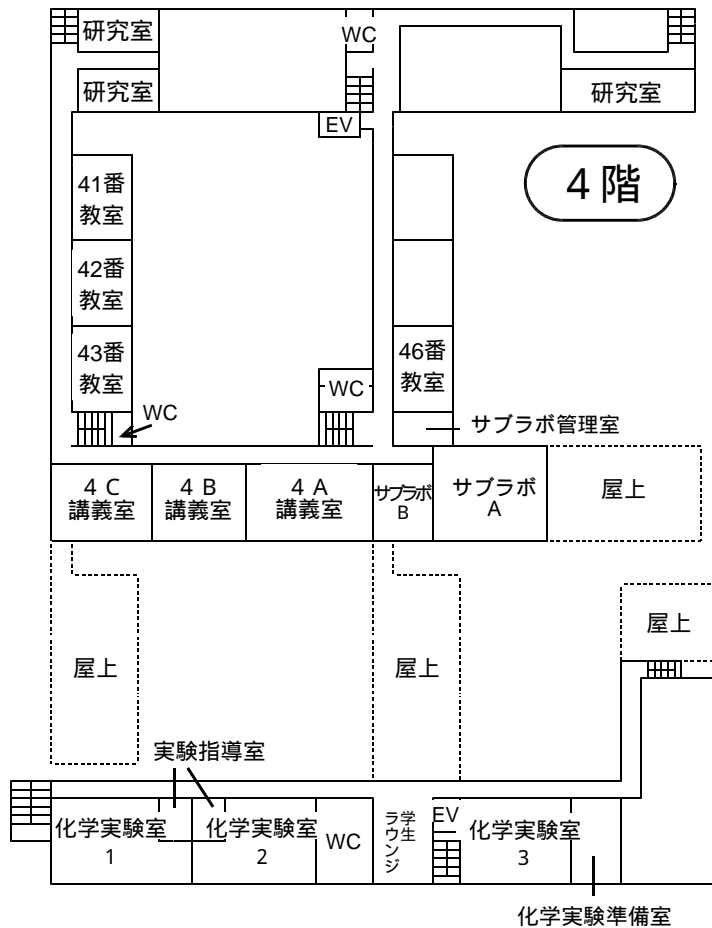
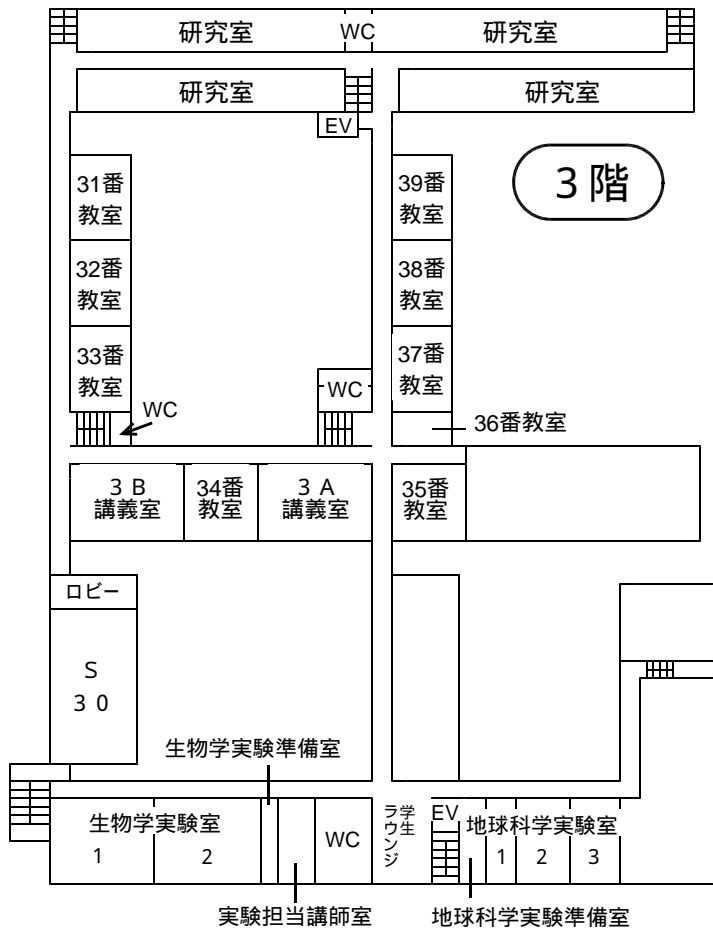
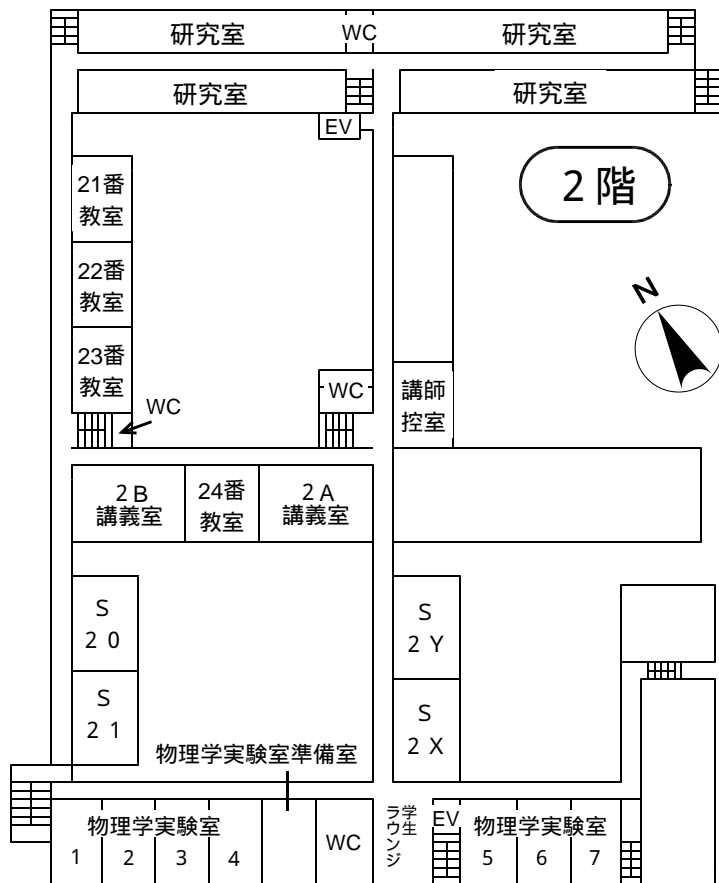
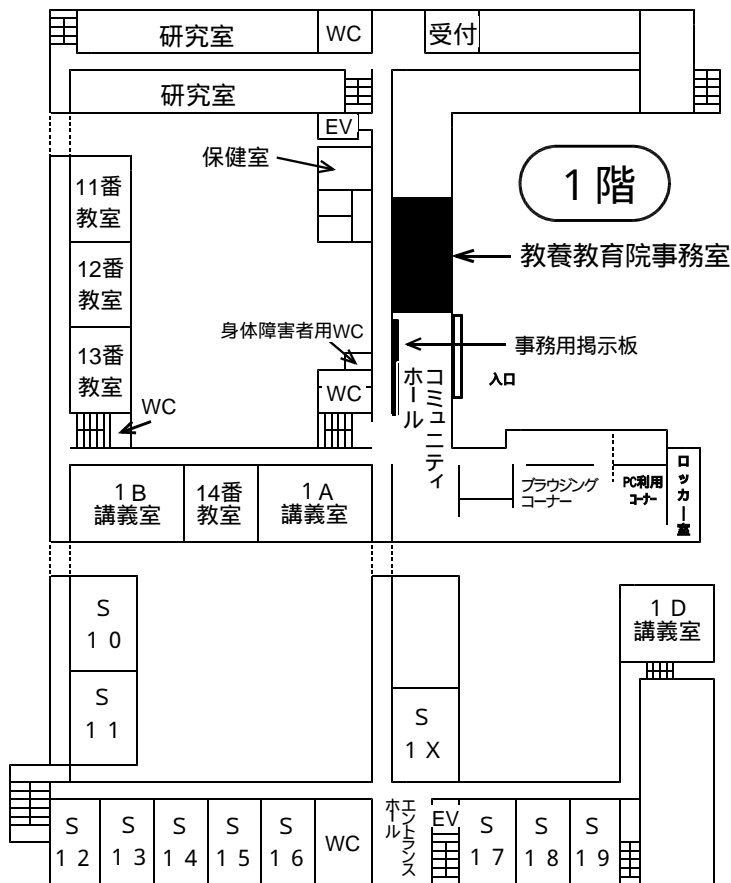
《全学教育棟 A館》



《国際言語文化研究科棟》



<全学教育棟本館(情報文化学部)>



2007年度前期・授業時間割表

「外国語特別研修コース」

	授 業 科 目	記号	担 当 教 員	曜 日 (時 限)	教 室	定 員	備 考
英 語	英語 Level 2a	A	STAVOY JOSEPH A.	月 (3)	A34	20	
	英語 Level 2a	B	STAVOY JOSEPH A.	月 (4)	A33	20	
	英語 Level 2a	C	HAIG EDWARD	火 (3)	A25	20	
	英語 Level 2a	D	POTTER SIMON R.	水 (3)	S17	20	
	英語 Level 2a	E	HAIG EDWARD	水 (2)	A15	20	
	英語 Level 2a	F	LONGCOPE PETER D.	金 (4)	31番	20	
	英語 Level 3a	G	LONGCOPE PETER D.	火 (4)	S12	20	
	英語 Level 3a	H	POTTER SIMON R.	水 (2)	A24	20	
	英語 Level 3a	I	LONGCOPE PETER D.	木 (4)	31番	20	
	英語 Level 3a	J	STAVOY JOSEPH A.	金 (1)	33番	20	
ド イ ツ 語	ドイツ語 Level 1a		小 坂 光 一	金 (3)	語33	20	後期(今井田)に継続
	ドイツ語 Level 2a		J. Peters	水 (3)	42番	20	後期に継続
	ドイツ語 Level 3a		J. Peters	水 (4)	語33	20	後期に継続
フ ラ ン ス 語	フランス語 Level 1a		藤 村 逸 子	金 (5)	S15	20	後期に継続
	フランス語 Level 2a		DUCROS GARANCE	月 (5)	A26	20	後期に継続
ロ シ ア 語	ロシア語 Level 1a		郡 敏 子	火 (2)	語33	20	後期に継続
	ロシア語 Level 2a		山崎 タチアナ	金 (3)	S13	20	後期に継続
中 国 語	中国語 Level 1a		加 納 光	水 (1)	21番	20	後期に継続
	中国語 Level 2a		劉 欣	水 (3)	S19	20	後期に継続
ス ペ イ ン 語	スペイン語 Level 1a		宮 下 克 子	水 (4)	23番	20	
	スペイン語 Level 2a		川 田 玲 子	木 (4)	38番	20	
朝 鮮 ・ 韓 国 語	朝鮮・韓国語 Level 1a		洪 順 愛	金 (3)	S15	20	後期に継続
	朝鮮・韓国語 Level 2a		崔 昇 浩	月 (4)	A34	20	後期に継続
	朝鮮・韓国語 Level 2a		鄭 芝 淑	木 (5)	1F南	20	後期に継続
ポ ル ト ガ ル 語	ポルトガル語 Level 1a		重 松 由 美	木 (2)	A33	20	後期に継続
イ タ リ ア 語	イタリア語 Level 1a		C. Galisch	水 (4)	21番	20	前期から継続

「言語文化・表現セミナー」

	授 業 科 目	担 当 教 員	曜 日 (時 限)	教 室	定 員	備 考
英 語	言語文化セミナー	HIGH PETER BROWN	火 (2)	A15	20	全学部
	言語文化セミナー	村 主 幸 一	水 (3)	S18	20	全学部
	言語文化セミナー	鈴 木 繁 夫	金 (2)	S18	20	全学部
	言語表現セミナー	木 下 徹	月 (2)	サブラボB	20	全学部
	言語表現セミナー	滝 沢 直 宏	火 (3)	サブラボB	20	全学部
	言語表現セミナー	鈴 木 繁 夫	水 (3)	サブラボB	20	全学部
	言語表現セミナー	堀 江 未 来	金 (5)	留セ-201	20	全学部

注) 講義室の表示について

- 「31番」(数字で始まるもの),「サブラボB」: 全学教育棟本館
- 「A34」(Aで始まるもの): 全学教育棟本館
- 「S19」(Sで始まるもの): 全学教育棟本館南棟
- 「語33」(語で始まるもの),「1F南」: 国際言語文化研究科棟
- 「留セ」: 留学生センター



2007年度後期・授業時間割表

「外国語特別研修コース」

	授 業 科 目	記号	担 当 教 員	曜日(時限)	教室	定員	備 考
英 語	英語 Level 2b	A	POTTER SIMON R.	月(3)		20	
	英語 Level 2b	B	LONGCOPE PETER D.	火(2)		20	
	英語 Level 2b	C	POTTER SIMON R.	水(4)		20	
	英語 Level 2b	D	POTTER SIMON R.	木(2)		20	
	英語 Level 2b	E	STAVOY JOSEPH A.	金(2)		20	
	英語 Level 3b	F	HAIG EDWARD	火(3)		20	
	英語 Level 3b	G	HAIG EDWARD	水(2)		20	
	英語 Level 3b	H	LONGCOPE PETER D.	金(3)		20	
ド イ ツ 語	ドイツ語 Level 1b		今井田 垂 弓	金(3)		20	前期(小坂)から継続
ド イ ツ 語	ドイツ語 Level 2b		J. Peters	火(3)		20	前期から継続
	ドイツ語 Level 3b		J. Peters	水(4)		20	前期から継続
フ ラ ン ス 語	フランス語 Level 1b		鶴 卷 泉 子	月(5)		20	前期から継続
	フランス語 Level 2b		DUCROS GARANCE	月(5)		20	前期から継続
ロ シ ア 語	ロシア語 Level 1b		SAVELIEV IGOR	火(2)		20	前期から継続
	ロシア語 Level 2b		山崎 タチアナ	金(3)		20	前期から継続
中 国 語	中国語 Level 1b		加 納 光	水(2)		20	前期から継続
	中国語 Level 2b		前 田 光 子	月(3)		20	前期から継続
ス ペ イ ン 語	スペイン語 Level 1b		A. Villalobos	水(4)		20	
	スペイン語 Level 2b		西 村 秀 人	木(4)		20	
朝 鮮 ・ 韓 国 語	朝鮮・韓国語 Level 1b		洪 順 愛	金(3)		20	前期から継続
	朝鮮・韓国語 Level 2b		金 元 榮	火(4)		20	前期から継続
	朝鮮・韓国語 Level 2b		鄭 芝 淑	木(5)		20	前期から継続
ポ ル ト ガ ル 語	ポルトガル語 Level 1b		重 松 由 美	木(2)		20	前期から継続
ア イ ヌ 語	アイヌ語 Level 1		小 坂 光 一	月(2)		20	
イ タ リ ア 語	イタリア語 Level 1b		C. Galisch	水(4)		20	前期から継続

「言語文化・表現セミナー」

	授 業 科 目	担 当 教 員	曜日(時限)	教室	定員	備 考
英 語	言語文化セミナー	長 畑 明 利	月(4)		20	全学部
	言語文化セミナー	福 田 眞 人	火(4)		20	全学部
	言語表現セミナー	岩 城 奈 巳	火(1)		20	全学部
	言語表現セミナー	上 原 早 苗	火(5)		20	全学部
	言語表現セミナー	外 池 俊 幸	木(3)		20	全学部

注) 各講義の使用教室番号については、「国際言語文化研究科全学向け授業案内 No. 57 (2007年度後期発行)」に掲載します。

〈外国語特別研修コース〉

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2a	STAVOY JOSEPH A.	月(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい This course will utilize materials provided by the teacher. The main focus of the course is to provide ample speaking and listening opportunities for students. Functional and cultural activities will be predominant, but there will also be some grammar and pronunciation exercises in the mix. Music and films will be used as supplementary material.</p> <p>授業内容 This syllabus is subject to change. 1. Introductions/Rules 2. Function/Grammar: Wh-questions; dates; time 3. Function/Grammar: Frequency adverbs; talking about jobs 4. Function/Grammar: Asking for information/Tag questions 5. Function: Instructions, Imperatives 6. Grammar/Culture: Comparatives/Cities around the world 7. Culture/Function: Snack foods and restaurants 8. Function/Grammar: Shopping; the supermarket/Count Uncountable nouns 9. Grammar/Culture: Superlatives; the best actors, music, etc. 10. Culture: Weddings around the world 11. Culture: Video: An American Wedding 12. Functions/Grammar: Traveling/Present perfect 13. Review and consolidation</p> <p>成績評価方法 Students will be evaluated on attendance, participation and examinations.</p>
英 語 Level 2a	STAVOY JOSEPH A.	月(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい This course will utilize materials provided by the teacher. The main focus of the course is to provide ample speaking and listening opportunities for students. Functional and cultural activities will be predominant but there will also be some grammar and pronunciation exercises in the mix. Music and films will be used as supplementary material.</p> <p>授業内容 This syllabus is subject to change. 1. Introductions/Rules 2. Function/Grammar: Wh-questions; dates; time 3. Function/Grammar: Frequency adverbs; talking about jobs 4. Function/Grammar: Asking for information/Tag questions 5. Function: Instructions, Imperatives 6. Grammar/Culture: Comparatives/Cities around the world 7. Culture/Function: Snack foods and restaurants 8. Function/Grammar: Shopping; the supermarket/Count Uncountable nouns 9. Grammar/Culture: Superlatives; the best actors, music, etc. 10. Culture: Weddings around the world 11. Culture: Video: An American Wedding 12. Functions/Grammar: Traveling/Present perfect 13. Review and consolidation</p> <p>成績評価方法 Students will be evaluated on attendance, participation and examinations.</p>
英 語 Level 2a	HAIG EDWARD	火(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい Critical Discourse Analysis (CDA) is a new interdisciplinary approach to the study of social problems such as globalisation, the environment, gender issues and racism. As one of the most radical (and controversial) fields in the humanities, CDA differs from conventional sociolinguistic approaches to social issues in that it goes beyond mere description of textual phenomena to the interpretation and evaluation of the complex relationships between language, discourse, ideology and power.</p> <p>授業内容 The course will consist of four parts: 1. First, we will consider the theoretical basis of CDA, locating this new approach in relation to earlier and alternative approaches. CDA draws on theories from a number of fields, but principally from linguistics and sociology. The linguistic theory which informs CDA is</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2a	HAIG EDWARD	火(3)	20	<p>known as SystemicFunctional Grammar. In this section of the course students will be introducedto the basic concepts and key analytical terms associated with this semantically-oriented view of language. From sociology, CDA draws on a more diverse range of theories including those connected with Marxism, structuration and critical realism. Finally, crucial to the central problem of CDA, namely how to connect linguistic and social theory, is the work of Michel Foucault on discourse and intertextuality and we shall study these ideas in some detail.</p> <p>2. Second, students will be introduced to some of the main methods of CDA.Although there are a number of competing schools of CDA, in this course weshall concentrate on the close-textual analysis methods associated with Norman Fairclough and the so-called Lancaster School of CDA.</p> <p>3. Third, working in groups, students will use CDA to conduct a brief investigation into an issue of their choice, concluding with a grouppresentation.</p> <p>4. Finally, in the light of their experience, students will be asked toreflect critically on the strengths and weaknesses of CDA itself.</p> <p>成績評価方法 Students will be evaluated according to their rate of attendance (25%), degree of active participation in the lessons (25%), group investigation (25%) and final oral report reflecting on CDA (25%).</p> <p>教科書 None. Materials to be supplied by the instructor.</p> <p>注意事項 Although this course will introduce a considerable amount of technical sociolinguistic terminology prior familiarity with either linguistics or sociology will not be a requirement for participation in this course.</p>
英 語 Level 2a	POTTER SIMON R.	水(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい The main objective of Intermediate English will be to cultivate better linguistic skills and habits as well as to increase fluency through informal, relaxed practice.</p> <p>履修条件・関連する科目等 Beginning-level university English or the equivalent.</p> <p>授業内容 Essentially for students who have completed beginning-level university English, or have at least the equivalent in experience and ability, Intermediate English will focus on using the English language for purposes of communication. Class sessions will be devoted to conversation, but preparation will require reading and /or writing materials to be discussed. Topics will include current events, social or cultural issues, collegiate studies, and serious items of personal interest.</p> <p>成績評価方法 Grades will be based predominantly on participation and impressions made throughout the course, but an examination to determine practical ability might be givenif necessary.</p> <p>教科書 Some reading materials will be made available as handouts.</p> <p>参考書 None is required, but an English-to-Japanese and a Japanese-to-English dictionary would be useful.</p> <p>注意事項 Participation is very important.</p>
英 語 Level 2a	HAIG EDWARD	水(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい The purpose of this intermediate level course is to develop students' confidence and spontaneity in spoken English interaction. A further aim is to allow students the chance to participate in improvised drama games, a form of drama which most of them are unlikely to have experienced before.</p> <p>授業内容 This course is based on improvised drama games. Students work in teams to perform short improvised scenes in English. These scenes do not require any memorization of scripts but rely instead on students' imaginations. The aim is to nurture a cooperative and supportive environment in which students developtheir ability to work creatively and confidently with whatever communication resources they</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2a	HAIG EDWARD	水(2)	20	<p>possess. This is not an academic content-based course and there will be no study of English per se or discussion of serious social 'issues'. Rather, in this course the emphasis is firmly placed on developing oral fluency and therefore relatively little attention will be paid to accuracy and form.</p> <p>The course will be organized roughly as follows:</p> <p>First, during the first few lessons of the course, the basic ideas behind improvised drama will be introduced to the students as they work in small groups to devise their own skits and sketches.</p> <p>Second, as they develop their improvisation abilities, students will be given a number of progressively challenging improvisation games and tasks to perform.</p> <p>Third, towards the end of the course students will be introduced to the exciting improvised drama game format known as Theatre sports. This is a lively team game in which teams of actors compete with each other to perform various kinds of improvisations.</p> <p>成績評価方法 Students will be evaluated according to their rate of attendance (40%), degree of active participation in the lessons (50%) (both of which are of more than usual importance in this rather unique course) and a final oral report (10%).</p> <p>教科書 None. Ideas for improvisations to be supplied by the students' imaginations.</p> <p>注意事項 Students who enroll for this course should be aware that it requires a high level of physical and mental activity.</p>
英 語 Level 2a	LONGCOPE PETER D.	金(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい The purpose of this class is to help students improve their communication skills. The main foci of the class will be speaking and listening, but we will also do some written work.</p> <p>授業内容 Much of the work that we will do in this class will be group-work and pair-work. The tasks that students participate in during class will be meaning-based but will also be devised in a way to draw their attention to various aspects of the language. These tasks - which will include interaction tasks as well as listening and speaking tasks - will make up the bulk of the contents of the class.</p> <p>成績評価方法 Class Participation, Homework, and Tests.</p>
英 語 Level 3a	LONGCOPE PETER D.	火(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい The purpose of this class is to help students improve their communication skills. The main foci of the class will be speaking and listening, but we will also do some written work.</p> <p>授業内容 Much of the work that we will do in this class will be group-work and pair-work. The tasks that students participate in during class will be meaning-based but will also be devised in a way to draw their attention to various aspects of the language. These tasks - which will include interaction tasks as well as listening and speaking tasks - will make up the bulk of the contents of the class.</p> <p>成績評価方法 Class Participation, Homework, and Tests.</p>
英 語 Level 3a	POTTER SIMON R.	水(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい The main objective of Advanced English will be to cultivate better linguistic skills and habits as well as to increase comfort and fluency through informal, relaxed practice.</p> <p>履修条件・関連する科目等 Intermediate-level university English or the equivalent.</p> <p>授業内容 Essentially for students who have completed beginning-level university English, or have at least the equivalent in experience and ability, Intermediate English will focus on using the English language for purposes of communication. Class sessions will be devoted to conversation, but preparation will require reading and/or writing materials to be discussed. Topics will include current events, social or cultural issues, collegiate studies, and serious items of personal interest.</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 3a	POTTER SIMON R.	水(2)	20	<p>成績評価方法 Grades will be based predominantly on participation and impressions made throughout the course, but an examination to determine practical ability might be given if necessary.</p> <p>教科書 Some reading materials will be made available as handouts.</p> <p>参考書 None is required, but an English-to-Japanese and a Japanese-to-English dictionary would be useful.</p> <p>注意事項 Participation is very important.</p>
英 語 Level 3a	LONGCOPE PETER D.	木(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい The purpose of this class is to help students improve their communication skills. The main foci of the class will be speaking and listening, but we will also do some written work.</p> <p>授業内容 Much of the work that we will do in this class will be group-work and pair-work. The tasks that students participate in during class will be meaning-based but will also be devised in a way to draw their attention to various aspects of the language. These tasks - which will include interaction tasks as well as listening and speaking tasks - will make up the bulk of the contents of the class.</p> <p>成績評価方法 Class Participation, Homework, and Tests.</p>
英 語 Level 3a	STAVOY JOSEPH A.	金(1)	20	<p>本講義の目的およびねらい This course will utilize materials provided by the teacher. The main focus of the course is to provide ample speaking and listening opportunities. Functional and cultural activities will be predominant but there will also be a focus on topics relevant to Japanese college students. Music, films and various current topic readings will be used as supplementary material.</p> <p>授業内容 The contents of this class in the form of a precise syllabus will be announced at the first class. However, below is a tentative list of topics which will likely be explored and discussed in this class.</p> <ul style="list-style-type: none"> Dating and Marriage Sports Child Rearing and Parenting Abortion/Teen Pregnancy War and Peace Music Cultural Wars Holidays Food and Restaurants Shopping Jobs and Occupations Fashion and Style <p>成績評価方法 Students will be evaluated on attendance, participation and examinations.</p>
ドイツ語 Level 1a	小坂 光 一	金(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい ドイツ語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいてドイツ語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。</p> <p>履修条件・関連する科目等 授業は演習（特に口頭練習）を中心に行われるので、毎回出席できることが履修の条件となる。</p> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この授業ではドイツ語会話の基礎となる事項を練習する。 2. I期で学習する内容： <ul style="list-style-type: none"> 4月 動詞の現在形を使った表現 5月 数字、冠詞類を使った表現 6月 間接疑問文、人称代名詞を使った表現、助動詞を使った表現 7月 過去を意味する表現、前置詞に関するまとめ 3. 無断欠席は4回まで。 4. 外国語の学習では間違いを恐れてはいけません。完璧をめざしたらいつまでたってもそのことばを使用することができません。従って、間違いの

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
ドイツ語 Level 1a	小坂光一	金(3)	20	<p>数と平常点の相関関係はありません。授業中は間違いを恐れず、思い切って練習してください。</p> <p>5. 授業の流れは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単語ごとの練習 2. コンマごとに区切った練習 3. センテンスごとの練習 4. カセットテープと同時に（ポーズなしで）発音する練習 5. 書き取りの練習 6. 書き取った内容に関するドイツ語での質問にドイツ語で答えるテクニックの練習 <p>成績評価方法 平常のできばえ・積極性と試験の結果を総合して判断します。 教科書 小坂光一著『ドイツ語で話してみよう』（同学社） 参考書 小坂光一著『マニュアルドイツ語ABC』（郁文堂）（必要と思う人だけが購入すればいい） 注意事項 LL装置を使う授業なので、練習状況は全く機械的に、かつストレートに平常点に反映される。来たり来なかったりする人、ただ参加しているだけで積極性のない人は受講をお断りします。</p>
ドイツ語 Level 2a	J. Peters	水(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい このコースは「聞く・話す」ことと「読み・書く」能力を養成する。</p> <p>履修条件・関連する科目等 優れた初級能力を持っている。</p> <p>授業内容 すでに身に付けたドイツ語力により磨きをかけるために、教科書の文章、会話テキスト、練習問題を使うとともに、折に触れて補助教材も併用しながら学んでいきたいと考えます。</p> <p>成績評価の方法 30%平均点〔宿題、積極的な授業参加（＝熱心な取り組み、態度など）〕、50%小テスト、20%学期末の試験</p> <p>教科書 教材については、学生諸君と相談して決めます。</p>
ドイツ語 Level 3a	J. Peters	水(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい このコースは「聞く・話す」ことと「読み・書く」能力を養成する。</p> <p>履修条件・関連する科目等 中級能力を持っている。</p> <p>授業内容 ドイツ語力をさらに強化・発展させるという目標に到達するために、教科書の文章、会話テキスト、練習問題を使うとともに、折に触れて補助教材も併用しながら学んでいきたいと考えます。</p> <p>成績評価の方法 50%平常点〔宿題、積極的な授業参加（＝熱心な取り組み、態度など）〕、50%小テスト</p> <p>教科書 教材については、学生諸君と相談して決めます。</p>
フランス語 Level 1a	藤村逸子	金(5)	20	<p>本講義の目的およびねらい フランス語の基礎的な文法知識を獲得しつつ、それと同時に初歩的な運用能力も修得することを目指す。また、フランス語圏の社会と文化について、基礎的な知識を与える。</p> <p>履修条件・関連する科目等 新たにフランス語を始める学生のためのクラス。</p> <p>授業内容 文法、読解、文化、コミュニケーションの四つの要素を豊かに取り入れた総合的な教材を使い、週一度の授業で一年間かけてフランス語の基礎を修得する。後期月曜5限の授業に接続する。 週一コマのクラスであるが、この授業にきちんとついてきて、教科書を使って自習すれば、一年後にはフランス語の文章を読んだり、フランス語会話がそこそこできたりするまでになる。文法項目は1年次の終わりに、初級文法を修了する。</p> <p>成績評価方法 平常点と筆記試験。 教科書 『新CDフランス語文法』大木他著、朝日出版社 参考書 授業中に指示する。 注意事項 定員は20名。</p>
フランス語 Level 2a	DUCROS GARANCE	月(5)	20	<p>本講義の目的およびねらい L'objectif du cours sera d'arriver à articuler des expressions de manière simple afin de pouvoir raconter des expériences, rapporter des</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
フランス語 Level 2a	DUCROS GARANCE	月(5)	20	<p>événements, parler de ses rêves et de ses buts, ainsi que d'exposer les raisons de ses opinions.</p> <p>授業内容 Les étudiants renforceront leurs compétences en français avec la méthode "Taxi ! 2" qui présente les avantages d'atteindre les objectifs linguistiques du niveau A2 du Cadre européen commun pour l'apprentissage des langues, ainsi que de se familiariser avec la société française et son actualité. Le principe méthodologique du cours sera d'observer des documents originaux variés tels que des dialogues, des affiches de publicité ou de courts articles, de les analyser en détail, de reprendre certains points grammaticaux si nécessaire, de réutiliser les expressions-clés et d'en discuter. Les thèmes concrètement abordés seront choisis en fonction du profil des étudiants.</p> <p>成績評価の方法 平均点(積極的な授業参加、宿題) 30%、小テスト 30%、学期末の試験 40%</p> <p>教科書 "Taxi! 2", Hachette FLE</p> <p>参考書 授業の中で適宜指示する。</p> <p>注意事項 和仏辞書が必要。</p>
ロシア語 Level 1a	郡 敏子	火(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい ロシア語の基礎を学ぶための科目である。バランスよくロシア語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行う。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景の知識を学習することによりロシア語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とする。目標は「ロシア語に触れる」である。</p> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「この人は誰ですか?」: 所有代名詞(誰それの) など 2. 「知ってますか?」: 動詞の現在変化など 3. 「ノートは机の中です」: 名詞の前置格(場所の表現) など 4. 「私は東京から来ました」: 国籍・出身地の表現など 5. 「すみません、入っていいですか?」「今日は試験です」; 動詞過去形など 6. 「ロシア語はおもしろい」: 形容詞の性数変化など 7. 「頭は何のためにあるのでしょうか?」: 身体を表わす語彙など 8. 「ご兄弟はいらっしゃいますか?」: 所有の表現など 9. 「今私は東京にいます」: 手紙の表現など 10. 「紅茶とコーヒーどちらですか?」: 名詞の対格など 11. 「どこにいたの?」「これはおいくらですか?」: 買い物、食事の表現 12. 「お店はどこでしょうか?」: 運動の表現(歩いて行く) 13. 「あしたは私は出張です」: 動詞の未来形など 14. 「5時に会いましょう」: 曜日、数字(1以上) 15. 「私はあさってロシアへ行きます」: 運動の表現(乗り物で行く) <p>成績評価方法 普通の授業での取り組みぐあいと定期試験で評価する。</p> <p>教科書 米重文樹、ピョートル・トマルキン「話すロシア語入門」白水社</p> <p>参考書 辞書は『博友社ロシア語辞典』『研究社露和辞典』『岩波ロシア語辞典』のうちから一冊を購入してください。</p> <p>文法については、随時次のものを参照してください: 佐藤純一『NHK新ロシア語入門〔CDブック〕』日本放送出版協会。</p> <p>注意事項 授業での口頭練習に積極的に取り組んで、楽しみながら着実にロシア語を身につけましょう。</p>
ロシア語 Level 2a	山 崎 タチアナ	金(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい ロシア語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習うロシア語から使うロシア語」を指向する科目である。さらに高度な文法知識を得ると同時に、生のロシア語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけロシア語を用いる。また、言語文化1あるいは初級ロシア語に引き続き、さらにロシア語世界の理解を深める。目標は「ロシア語を活かす」である。</p> <p>授業内容 ロシア語に限らず各外国語の学習に欠かせないのは、「書く」、「読む」、「話す」、「聞く」という過程ですが、この授業はこれら4つの過程を逆順にし授業を進行していきます。具体的な流れは以下になります。テーマごとに聞き取りを行います。テーマにまつわる生徒たちとの会話を</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
ロシア語 Level 2a	山 崎 タチアナ	金(3)	20	<p>います。セメスターの後半にインターネットでのロシア紹介などの記事を読みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ロシアへ入国、空港にて 2. ホテル 3. トランクの中身 4. 電話で待ち合わせ 5. 道を探ねる 6. モスクワの歩行者天国 7. 前半の復習 8. 時の表現 9. 週末を過ごす、郊外へ 10. 食事のお話(1) 11. 食事のお話(2) 12. 人の家を訪ねる 13. ロシア語で「言葉の遊び」 14. ことわざを使う 15. 留学を終えて、帰国 <p>成績評価方法 評価の方法は、出席を重視すること、および試験期間内のマンツーマンでの口頭試験の2つの基準から成り立ちます。</p> <p>教科書 プリントを配布します。</p> <p>参考書 参考書は授業中に指示する。露和辞典は、「博友社ロシア語辞典」、「岩波ロシア語辞典」、「研究社露和辞典」の内から一冊を購入すること。</p> <p>注意事項 積極的に授業に参加することが望まれます。</p>
中国語 Level 1a	加 納 光	水(1)	20	<p>本講義の目的およびねらい 第三外国語として、初めて中国語を学ぼうとする学習者を対象とする。この授業においては、中国語の発音及び基礎的文法事項を学び、今後中国語の学習を続けていくうえで必要となる基礎力の養成を目的とする。</p> <p>授業内容 この初級中国語1の授業では、まず411の音節を、声調を伴って正確に発音できるよう指導していく。同時に文法的項目としては、名詞述語文・形容詞述語文・動詞述語文・疑問詞・量詞・否定の副詞・助動詞などを学ぶ。教科書の内容に関連して、中国の風俗・文化などを理解する。</p> <p>成績評価方法 平常点と期末試験による。</p> <p>教科書 加納光・白木通・成戸浩嗣著『ようこそ、中国語の世界へ』(白帝社)</p>
中国語 Level 2a	劉 欣	水(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい この授業はかなり高度な聴解力と口頭表現力など特定の運用能力にしばって行われ、受講者の専門的要請にも対応できる高度な実践的運用能力の養成を目指す。</p> <p>学習意欲が旺盛でなければ授業についていくことはできない。 目標は「中国語を活かす」である。</p> <p>履修条件・関連する科目等 中国語の初級文法を習得していること</p> <p>授業内容 中国のビデオドラマを放映しながら、そこで用いられている表現を正確に聞き取る力、また、そこで用いられている表現を応用した口頭表現力養成の練習をしていく。</p> <p>この授業は中国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし、「習う中国語から使う中国語」を指向する。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の中国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。</p> <p>したがって、口頭表現力、聴解力を養成するため、できるだけ中国語を使うようにしたい。</p> <p>言語文化科目Ⅰ、初級中国語に引き続き、さらに中国語世界の理解を深めていきたい。</p> <p>授業上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の授業でガイダンスを行います。 ・参考書についてはガイダンスで説明します。 ・高度な聴解力、口頭表現力の養成をめざすので、中国語の基礎的な力が身に付いていること、積極的に授業に参加することが、受講の条件です。 <p>成績評価方法 授業で説明する。</p> <p>教科書 随時、プリント教材を配布する。</p> <p>参考書 必要に応じて授業で紹介する。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
スペイン語 Level 1a	宮下克子	水(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい スペイン語は三億人以上の人々によって話されている言語であり、国際化著しい今日の社会を舞台にめざましい活躍が期待される学生諸君にとって、これを習得することは大変に有益なことと思われる。本授業においては、スペイン語の基礎文法を学ぶと共に、日常生活や旅行等に必要の簡単な会話を身につけるべく、ビデオ等の教材を用いて多角的に学習を進める。テキスト、ビデオはスペイン及びラテンアメリカ諸国に関する情報を豊富に含むものであり、その雰囲気、文化、歴史等に対する学習者の興味を喚起することは間違いない。</p> <p>履修条件・関連する科目等 特にありません。初心者をも基本的に対象としますが、かつて学んだことがあるがあらためてもう一度スペイン語を学びたいという人も歓迎します。</p> <p>授業内容 LECCIÓN 1 「空港でタクシーに乗る折の会話」及び、母音、子音の読み方、音節、アクセント等、スペイン語の発音、読み方の学習。 LECCIÓN 2 「ホテルのフロントでの会話」及び、男性名詞・女性名詞、複数形、冠詞、主格人称代名詞、動詞serの活用と用法。 LECCIÓN 3 「大学の外人コース受付での会話」及び、動詞estarの活用と用法、疑問文・否定文、形容詞。 LECCIÓN 4 「大学のキャンパスでの会話」及び、規則活用動詞の活用。国名・国籍。 LECCIÓN 5 「授業の中の会話」及び、tener, ir, venirの活用、数字、時刻の言い方。LECCIÓN 6 「キャンパスでの会話」及び、語幹変化動詞の活用、その他の不規則動詞、直接・間接目的格人称代名詞。 LECCIÓN 7 「サッカー場での会話」及び、所有詞、指示語、比較級、最上級。 LECCIÓN 8 「外国人コースの授業での会話」及び、点過去、前置詞。 LECCIÓN 9 「キャンパスの中庭での会話」及び、点過去不規則動詞、疑問詞。 LECCIÓN 10 「大学の喫茶店での会話」及び、線過去の活用と用法。 LECCIÓN 11 「休暇あけのキャンパスでの会話」及び、天候表現、存在文、不定語・否定語。 LECCIÓN 12 「街の喫茶店での会話」及び、現在分詞、曜日、手紙の書き方、メール。 LECCIÓN 13 「図書館での会話」及び、過去分詞、現在完了、関係代名詞。 LECCIÓN 14 「ホームステイ先の家での会話」及び、受動文、再帰動詞。 LECCIÓN 15 「映画についての会話」及び、不定人称の表現。 及び、ビデオ (ESPANA VIVA) を用いて、挨拶、買い物、紹介、などの簡単な会話を学ぶ。</p> <p>成績評価方法 1. 出席状況 (40%) 2. レポート (60%) 教科書 ESPANA VIVA (生き生きスペイン語) 福嶋教隆朝日出版社 参考書 辞書：例えば『現代スペイン語辞典』白水社など。 授業時にプリント等を配布する。 注意事項 辞書に関しては、上記の『現代スペイン語辞典』に限るものではない。スペイン語を学習する上での各々の意図に応じて、あるいは好みに沿って選んでください。</p>
スペイン語 Level 2a	川田玲子	木(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい 一年次又は初級スペイン語で身につけたスペイン語の知識をもとに、スペイン語力のさらなる向上を目指す。</p> <p>履修条件・関連する科目等 第Ⅰ・Ⅱ期のスペイン語1・2・3・4または初級スペイン語1・2の授業を終えている、もしくはそれに相応する基礎知識を有すること。</p> <p>授業内容 言語分析を目的とする文法学習では一般に扱わない「状況に応じた適切な表現」を紹介する。たとえば、時間表現、数量表現、挨拶表現、相槌表現、割り込み表現などである。また義務教育の中で自然に修得する算数、社会、理科関連の基本的な表現も紹介していく予定である。その他、中級文法レベルの冠詞・形容詞の用法、接続法なども随時学んでいく。 会話練習もおこなう予定である。日常生活に関する簡単なLecturaやDialogoを読み、内容に関して質疑応答をおこなう。なお、毎回のテーマは</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
スペイン語 Level 2a	川田 玲子	木(4)	20	<p>初回講義に指示する。受講者からの要望はできる限り対処していきたい。</p> <p>成績評価方法 出席、授業への積極的な参加など総合的に評価する。</p> <p>教科書 必要資料を配付する。</p> <p>参考書 寿里順平著『スペイン語の表現』東洋書店 寿里順平著『応用スペイン語文法』東洋書店 高橋覚二著『スペイン語表現ハンドブック』白水社 高橋覚二著『基礎スペイン語便覧』評論社 宮本博司著『スペイン語分類単語集』大学書林 山田義郎監修『中級スペイン語文法』白水社</p> <p>注意事項 毎回西和辞典を持参すること。</p>
朝鮮・韓国語 Level 1a	洪 順 愛	金(3)	20	<p>本授業の目的およびねらい 新たに朝鮮・韓国語を習う学生ばかりでなく今一度基礎からやり直したい学生も対象とする、朝鮮・韓国語の基礎を学ぶための科目である。バランスよく朝鮮・韓国語を学べるよう、基礎文法の学習だけでなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なう。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景の知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とする。</p> <p>授業内容 この授業では次のような能力を養成する。 書記法…ハングル（朝鮮・韓国文字）の構成を理解し、確実にかつ美しく書けるようにする。発音…韓国語の母音と子音を正しく発音し聞き分けられるようにする。特に、日本語にはない終声（パッチム）や平音・濃音・激音の区別などに慣れるように練習する。また、朝鮮・韓国語リズムやイントネーションで文章を発話できるようにする。ハングルの正しく読むための音韻規則のうち連音化、有声化、鼻音化など基本的なものを着実にマスターする。</p> <p>文 法…初歩的文法を学習する。学習する主な文法事項は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用言の種類による文種（指定詞文・存在詞文・形容詞文・動詞文） ・機能別の文種（平叙文・疑問文・命令文・勧誘文・感嘆文） ・否定文（長い否定と短い否定） ・数詞（漢数詞・固有数詞） ・基本的な助詞（「は」「が」「を」「も」「に」「で」「から」「まで」「と」などに相当するもの） ・文体（あらたまった丁寧体・くだけた丁寧体）ただし、機能別の文種のうち命令文、勧誘文、感嘆文、文体のうちくだけた丁寧体については、必要に応じて簡単に習う程度にとどめる。これらについて詳しくは初級朝鮮・韓国語2で学習する。 <p>口頭表現力…日常よく用いられる典型的な挨拶表現などを適切に使えるようにする。</p> <p>成績評価方法 出欠状況、小テスト及び期末試験の成績により総合的に評価する。ただし、期末試験の成績が総合成績に占める割合は6割程度とする。</p> <p>教科書 自家版教材およびプリント教材（教室で配布する）</p> <p>参考書 必要なものは授業中に指示する。</p>
朝鮮・韓国語 Level 2a	崔 昇 浩	月(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい 朝鮮・韓国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習う朝鮮・韓国語から使う朝鮮・韓国語」を指向する授業である。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の朝鮮・韓国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけ朝鮮・韓国語を用いる。</p> <p>履修条件・関連する科目等 言語文化Iあるいは初級朝鮮・韓国語の履修者を対象とするが、相応の力があればこれらを履修していなくてもかまわない。ただし、受講申請時に担当教員に相談すること。</p> <p>授業内容 この授業では初級朝鮮・韓国語あるいは言文Iの学習を通じて得た文法的知識に基づく口頭表現力および聴解力の養成を目指す。授業はできるだけ韓国語を用いて行い、「習うより慣れよ」の原則に従って学習する。発音や文法にこだわらずに、言いたいことを現在の能力を駆使して表現する姿勢と能力を養う。対話の相手が誰であるかに応じた異なる文体の表現をできるようにする。</p> <p>学習事項は、次のような表現形式である。（ただし、順不同。時間の都合</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
朝鮮・韓国語 Level 2a	崔 昇 浩	月(4)	20	<p>により項目の出し入れもある)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疑問…知りたいことを相手に尋ね、またそれに答えるための種々の表現形式を学習する。疑問形式は対話において最も重要な役割を果たし、ヴァリエーションも最も豊富であるので、特に重点を置いて練習する。 2) 否定…陳述を打ち消すための表現形式を学習する。 3) 感嘆…感情を込めて表現するための形式を学習する。 4) 依頼・指示・禁止…相手に何かをさせよう、あるいはほしくないようにするための表現形式を学習する。 5) 願望…自分がやりたいことを相手に伝える、あるいは相手の願望を尋ねるための表現を学ぶ。 6) 勧誘・提案…相手と共同して何かをしようというときに用いる表現を学習する。 7) 意志・予定…意思や予定を表す種々の表現に習熟する。 8) 推量・推測…出来事を推し量るときの表現形式を学習する。 9) 引用・伝聞…他人の言説を別の人に伝えるときの表現形式を学ぶ。 10) 可能・不可能…能力の有無、許可のあるなしを表す表現を学習する。 <p>成績評価方法 出席状況、平常点、期末試験の成績により総合的に評価する。ただし、期末試験は韓国語による面接試験とし、その総合評価に占める割合は6割程度とする。</p> <p>教科書 プリント教材。</p> <p>参考書 必要な物は授業で指示する。</p> <p>注意事項 日韓辞典を必ず用意すること。</p>
朝鮮・韓国語 Level 2a	鄭 芝 淑	木(5)	20	<p>本授業の目的およびねらい 朝鮮・韓国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習う朝鮮・韓国語から使う朝鮮・韓国語」を指向する授業である。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の朝鮮・韓国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけ朝鮮・韓国語を用いる。</p> <p>履修条件・関連する科目等 言語文化Ⅰあるいは初級朝鮮・韓国語を履修した者を対象とするが、相応の力があればこれらを履修していなくても構わない。ただし、受講申請時に担当教員に相談すること。</p> <p>授業内容 この授業では初級朝鮮・韓国語あるいは言文Ⅰの学習を通じて得た文法的知識に基づく口頭表現力および聴解力の養成を目指す。授業はできるだけ韓国語を用いて行い、「習うより慣れよ」の原則に従って学習する。発音や文法にこだわらずに、言いたいことを現在の能力を駆使して表現する姿勢と能力を養う。対話の相手が誰であるかに応じた異なる文体の表現をできるようにする。</p> <p>学習事項は、次のような表現形式である。(ただし、順不同。時間の都合により項目の出し入れもある)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己紹介…他人に自分を紹介するための基本的な表現形式を学習する。 2) 人の紹介…他人を紹介するための様々な表現形式を学ぶ。 3) 出会いと別れ…様々な出会いと別れの場面に用いられる表現を学習する。 4) 約束…人と何かを約束するときに用いる表現を学習する。 5) 道聞き…人に道を尋ねるときに使われる代表的な表現形式を学ぶ。 6) 電話…電話での対話の基本形式に習熟する。 7) 宿泊…宿泊の予約や宿泊施設内での対話に用いられる表現を学習する。 8) 病院で…診療の際の医師との対話に必要な表現を学習する。 9) 食堂で…食堂で料理を注文するなど従業員との対話に使われる表現を学習する。 10) ノレバンで…カラオケに行き歌を楽しむ時の対話を学習する。これについては、受講者の希望があれば実際にカラオケで行うかも知れない。 <p>成績評価方法 出席状況、平常点、期末に行われる5分間スピーチの成績により総合的に評価する。</p> <p>教科書 プリント教材。</p> <p>参考書 必要な物は授業中に指示する。</p> <p>注意事項 日韓辞典を必ず用意すること。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
ポルトガル語 Level 1b	重松由美	木(2)	20	<p>本授業の目的およびねらい 本授業は、初めてポルトガル語を習う人だけでなく、あらためて基礎から学び直したい人も対象としている。ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を学び、基礎的な会話力を身に付けることを目的とする。受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣の紹介も併せて行ってゆきたい。</p> <p>履修条件・関連する科目等 特になし（院生及び教職員も受講の対象とする）。2期（前期と後期）連続での履修が望ましい。</p> <p>授業内容 初級ポルトガル語の授業は、週一回の授業で一年間かけてポルトガル語の基礎を習得するクラスである（後期も同じ木曜2限の授業に接続する）。ブラジルポルトガル語の基礎的な文法事項を徹底的に習得できるように、特に口頭での練習問題を繰り返し行う。また、状況を設定しての日常会話の練習を行い、基礎的な会話力を身に付けていく予定である。</p> <p>成績評価方法 授業への参加態度と定期試験の結果が総合的に判定される。</p> <p>教科書 必要資料を配布する。</p> <p>参考書 ポ日辞書が必要である。参考：『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。</p> <p>注意事項 毎回、辞書を持参すること。</p>
イタリア語 Level 1a	C. Galisch	水(4)	20	<p>本授業の目的およびねらい イタリア語の基礎を習得し、イタリア語の文章を読み書き、イタリア語を話せるようにすること。</p> <p>履修条件・関連する科目等 2期（前期と後期）連続で履修することが望ましい。</p> <p>授業内容 イタリア語文法の基礎事項を解説しつつ、簡単な文章を読んだり書いたりすることを学習させる。会話の練習では現代イタリア語でよく使う表現を学び、イタリア語による表現能力の習得に重点を置く。</p> <p>成績評価方法 レポート（イタリア語による文章作成）の採点による。</p> <p>教科書 指定しない。会話の教材のみ必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考書 自習用に、自分に合ったイタリア語入門テキストとイタリア語辞書を選び入手すること。</p>

〈言語文化・言語表現セミナー〉

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
英 語 文 化 セ ミ ナ ー	HIGH PETER BROWN	水(2)	20	<p>本授業の目的およびねらい By the end of the course, students should be able to understand brief lectures in intermediate English and to communicate basic opinions and responses to a variety of topics. Listening comprehension at the middle-intermediate level and basic oral communication at the lower intermediate level are the two main focuses of this course. Basic listening skills – the essential foundation for acquisition of a foreign language – shall be emphasized in a variety of ways, all of which emphasize "active listening." 授業内容 Listening comprehension exercises will invariably involve "listening with a purpose." In other words, students will be supplied with worksheets requiring them to listen for specific items. At times, students will be given access to the tape recorder and recorded lecture in order to listen to the same segment repeatedly in order to ferret out, on their own, a particular point of information. The content of the lectures will heavily emphasize topics of general interest in American history, culture and literature. The first four weeks will be a general survey of American history from its colonial beginnings through the present era. Next we will look at excerpts from the works of Washington Irving, Mark Twain, Ernest Hemmingway and James Thurber. Near the end of the course, there will be a segment on American poetry. In this section, students will study the meaning and cultural context of the poem and then move on to actually memorizing the work. 成績評価方法 attendance, class participation, final exam. 教科書 An Outline of American Literature, Peter B. High (Longman, Inc.) 注意事項 Up to 3 absences permissible</p>
英 語 文 化 セ ミ ナ ー	村 主 幸 一	水(3)	20	<p>本授業の目的およびねらい 1 学術的な英語の文章を精読する力を養う。高校までの英語力によって、ものごとを描写する類の英文は理解できても、抽象度の高い知的な議論を理解するまでには相当の道のりがある。そのための「読みの姿勢」を学ぶ。 2 メディア研究の論文を通して、ニュース・バリュー、ニュース生産のプロセスとイデオロギーの関係、グラムシの理論の応用などについて知る。 授業内容 <テキストの内容について> 「客観、中立、バランス」は、ジャーナリズムが政治的勢力・国家的勢力から独立した「第四の階級」の地位を主張する基礎となっている。その機能は、公共圏の中で独立した情報を提供することを通じ、マスメディアの社会的責任と、民主主義社会の健康な働きを保証するものとされている。だからニュース分析はメディア研究の核を成す。同時にニュースは、文化商品である。この点には、ニュースとメロドラマとの類似性も見て取れる。すなわち、際限なく続く事件と、決してそれらを総合しないという特徴である。我々が日常的に接するニュースは、必然的に、制度的な圧力と構造の産物であり、選択と構築の産物である。その研究の中心は権力の問題である。メディア機関と政府との関係における権力、メディア機関の内部の権力。 (1) 第一の論文は、初めに「ニュース・バリュー」について議論する。ニュース・バリューを構成する要素として、1) ドラマ性、2) 視覚的な魅力、3) 娯楽性、4) 重要性、5) サイズ、6) 近接性、7) 簡略性、などが挙げられる。 (2) 第二の論文は、第一の論文よりも理論的である。ニュース生産のプロセスにグラムシのヘゲモニー理論を応用する。数多くの「無秩序な」事件を秩序立てることは、また意味を与えるプロセスでもある。そのやりかたは、意味のマップの中への事件の位置づけによって成される。その地図はこの社会の写し絵であり、我々はすべてそれを共有していると見なされる。解釈の枠組みの中におかれた事件は、「破壊的・問題含み」として、意味づけられる。「公平、バランス、客観」を確保しようとする作業ルールそのものが、権力者の利益になるように機能すると議論される。メディアに関心のある人には、大変興味深い議論である。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
英 語 文 化 セ ミ ナ ー	村 主 幸 一	水(3)	20	<p><クラスでの学生諸君の作業></p> <p>最初のクラスでモデルを示すつもりですが、一つのセンテンスを適宜区切りながら訳してゆきます。語法、構文、内容理解など、どれもおろそかにせず、丹念に英文を読み解いてゆく作業をしてもらうつもりです。</p> <p>成績評価方法 (1) 単語テスト、30点満点。(2) 発表、10点満点。(3) レポート、20満点。(4) 学期末テスト、40点、(5) 授業時、教員の質問に正解すれば一回につき5点。</p> <p>教科書 プリント教材を使用（南部生協1階購買奥の印刷部で各自購入。その際、クラスの曜日時限担当教員名を確認すること）。</p> <p>参考書 佐藤卓己『メディア社会現代を読み解く視点』（岩波新書、2006） 佐藤卓己『現代メディア史』（岩波書店、1988） ノーム・チョムスキー『メディア・コントロール』（集英社新書、2003） 金子勝他『メディア危機』（NHKブックス、2005）</p> <p>注意事項 欠席と遅刻のルールあり。</p>
英 語 文 化 セ ミ ナ ー	鈴 木 繁 夫	金(2)	20	<p>本授業の目的およびねらい</p> <p>私達が英語を書く場合に模倣するのにふさわしいきわめて良質の文体で書かれている英語を速読しつつ、説明文、議論文の作り方を知ってもらいます。あわせて、説明・議論をするための思考パターンも学んでもらいます。わかっているつもりになっている時制、助動詞、基本単語などに重点をあてて、これらにたいする私たちの微妙な誤解を修正します。</p> <p>履修条件・関連する科目等 言語文化科目Ⅰ，言語文化科目Ⅱ，言語文化科目Ⅲ</p> <p>授業内容 テキストは、とりわけ西洋絵画の見方・読み方をわかりやすくていねいに教え、かつまた神話、キリスト教の重要な点をかいつまんで理解できるようにしています。</p> <p>授業は次の順に進んでいきます。</p> <p>(1) 文章をきちんと覚えているかどうかをチェックするためにクローズド・テスト（単語の穴埋め）。(2) 文章の翻訳。(3) 文章のなかの重要な表現・文法事項についての解説。(4) 内容についての質疑応答とディスカッション。とくにテキストを叩き台とし広い視野からの分析を討論の形式でおこないます。</p> <p>(1) は毎回5問で、手書きで埋めてもらいます。範囲は当該の週のテキスト全体です。</p> <p>(2) の準備として、授業前にあらかじめ担当を決めておき、その箇所について、固有名詞はもちろん、単語、文法事項などを記載した注を名大WebCTのこの授業の「ディスカッション」上に流してもらいます。毎週、期限までに注釈をこのボードに載せてもらいます。すべて添削し返却します。クラスメートの出した注、添削済みの完成された注は授業の数日前に見られるようになっていきます。</p> <p>(3) は、高校までで習わなかった文法内容や言葉の意味についての解説を重点的に行います。わかっているつもりになっている時制、助動詞、基本単語などに焦点をあてて、これらにたいする私たちの微妙な誤解を修正します。</p> <p>(4) ディスカッションはグループ内で行い、それを代表に発表してもらいます。なおテストは(1)以外に、英語の理解度をチェックするために、英文和訳の小テストも学期中に二回実施します。またそれとは別に、学期の始めと最後にTOEIC風の模擬テストを行い、読解力がどのくらい養成されたのか、自己判定してもらいます。さらに学期末までに、ひとつの視覚芸術作品について、授業で取り扱った内容を梃子にしてレポート（2,000字程度）を提出してもらいます。</p> <p>成績評価方法 要約・発表質疑・議論への参加（40%）、テスト（40%）、レポート（20%）</p> <p>教科書 Dana Arnold, Art History: A Very Short Introduction, Oxford University Press.</p> <p>参考書 ウッドフォード、ケンブリッジ西洋美術の流れ(8)/絵画の見方、岩波書店</p> <p>注意事項 ネット接続しているパソコンが必要です。</p>
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	木 下 徹	月(2)	20	<p>本授業の目的およびねらい</p> <p>本授業はパラグラフを中心に、エッセイにつながるライティングの基礎力養成を目的としている。パラグラフのタイプとその構成の原理、さらには、</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
英 語 文 化 セ ミ ナ ー	木 下 徹	月(2)	20	<p>パラグラフの発展型としてのエッセイの組み立て方を理解することで、究極的には、4技能全てに共通の英語のディスコースの基本を習得することをねらいとする。</p> <p>履修条件・関連する科目等 パソコンを使用したライティングの提出課題があるので、ブラインドタッチでパソコンのローマ字入力ができることが望ましい。</p> <p>授業内容 本授業の内容としては、学期の前半はパラグラフの基礎的な知識の確認からはじめて、英語の単語、文、パラグラフ、エッセイの関係を理解する。後半では、パラグラフの7つの基本タイプを扱う。また、それぞれの章に付随する練習問題を通して、そのタイプのパラグラフを拡大したエッセイとの関係も理解することを目指す。</p> <p>週ごとの授業では、大体、次のような事柄を扱う。ただし、実際の順序は必ずしもこの順というわけではない。</p> <p>パラグラフーイントロダクション トピックセンテンスの定義と目的 よいパラグラフの条件とは何かを考える。 文と文のつながり（リンクワード）とは何か 文と文のつながり（リンクワード）の種類と働き パラグラフからエッセイへ：発展のさせ方考える。 パラグラフタイプ 記述/叙述タイプ パラグラフタイプ 物語 パラグラフタイプ 原因と結果 パラグラフタイプ 比較と対照 パラグラフタイプ 分類と分析 パラグラフタイプ 問題と解決</p> <p>なお、適宜、その週の内容に関連するライティングの課題を課し、授業中にピアレビューを行い、それに基づく修正を経て、翌週に提出する。</p> <p>成績評価方法 平常のライティング提出課題、期末試験などを総合して判断する。</p> <p>教科書 有料ホームページ使用（使用料各自1,500円） 参考書 連語辞典、活用辞典など。</p> <p>注意事項 かなり頻繁に英語によるライティング課題を課して、その提出を求めるので、電子メールのチェックの仕方、ホームページへのアクセスの方法等は各自で習熟していること。また、担当者からの電子メール、指定されたHP等の定期的チェックを怠らないこと。</p>
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	滝 沢 直 宏	火(3)	20	<p>本授業の目的およびねらい 全学教育棟サブラボBを使い、受講生各自が選んだ英文の多読と精読を平行的に行いつつ、電子化された大規模な英語の資料（1億語から成る現代英国英語のコーパス）を利用して、英語表現力を向上させることを目的とする。その際、文法やコロケーション（語と語の慣習的結合）に十分な注意を促す。</p> <p>授業内容 各自、自らが選んだ英語の雑誌・新聞などを定期的に購読し、「自分では辞書を引かなくても意味が分かるが、なかなか自分から使うことはできない」表現で、なお且つ「真似てみたいと思うような」表現を数多く収集し、それを基にして、表現力の向上を図る。まず、初回において、(1) どの程度の難易度の英文を選択すべきか、どのような雑誌・新聞などを読むべきかに関して解説する。(2) 利用すべき英英辞典、英和辞典の紹介、(3) コーパスとは「電子化された大規模な英語の資料」であるが、名古屋大学では1億語から成る現代英国英語のコーパス（British National Corpus）を利用できる環境が整っているため、そのコーパスの利用方法に関して簡単に紹介する。（但し、マニュアル（英文）がオンラインで読めるようになっているので、詳細は各自で学ぶことになる。それ自体が英語の勉強である。）(4) 英語の表現力を伸ばすにあたって、どのような英語表現に注目すべきかを具体的に解説する。</p> <p>以上のことを前提にして、第3週目以降、毎週、各自が選んだ表現を事前に電子メールで提出して貰う。授業では、その表現のどこが有益であるのかを何人かに発表してもらい、皆で議論する。また、そのようにして収集された有益な表現が実際にどのように使われているかを、コーパスを利用して調査し、表現力の向上を図る。その際、コロケーション（語と語の慣習的結合）にも十分な注意を促す。</p> <p>簡単にいうと、コーパスを活用することで、「書けそうで書けないNative</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
英語表現セミナー	滝沢直宏	火(3)	20	<p>の英語」を身に付け、実際の作文において自然に使いこなせるようになることを目指す。</p> <p>成績評価方法 宿題（第3週以降、毎週）、レポート（学期末）</p> <p>教科書 各自、講読する雑誌、新聞などを入手すること（WWWからコピーしても構わない）。詳細は初回に指示する。</p> <p>参考書 滝沢直宏（2006）『コーパスで一目瞭然』小学館</p> <p>注意事項 英英辞典を必ず一冊は用意し、頻繁に引くこと。コンピュータを多用する。宿題は、電子メールで提出するので、電子メールが使えない人は受講不可。</p>
英語表現セミナー	鈴木繁夫	水(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい 文法はネイティブの原則に、正しい語法は到達目標にという「グローバル英語」を書ければよいという観点から、自分の考えを英語で表現する練習をしていきます。</p> <p>履修条件・関連する科目等 言語文化科目Ⅰリーディング 言語文化科目Ⅱ 言語文化科目Ⅲ</p> <p>授業内容 e-mailの書き方練習を学期12回分使って行います。比較的簡単な友人との挨拶、待ち合わせから日常場面で必要な約束などが主で、一レターにつき10文構成になっています。メールを書くペースは約一日で一メールですからかなりの分量になります。</p> <p>e-mailはネット上にある教材（80 letters）に授業時間外にあらかじめ取り組んでもらいます。解答例（音声付き）をネット上で確認できるので、（1）自分の書いた英文との違いを授業で発表してもらいます。また（2）回答例と同じ英文が書けるかどうかのチェックを授業では行います。</p> <p>授業では、（1）についてグループ内でディスカッションを行い、問題点を代表に発表してもらいます。とくにここでは高校までで習わなかった文法内容や言葉の意味について解説を重点的に行います。わかっているつもりになっている時制、助動詞、基本単語などに焦点をあてて、これらにたいする私たちの微妙な誤解を修正します。（2）については虫食いの形で10問、答えてもらいます。</p> <p>残りの授業時間は状況を設定したクラスメート同士でのメール交換を行います。そこでは、インターネット上のコーパス、CD型辞書の利用、文章力アップの仕方を学んでもらいます。とくに文章構成の仕方については、日本語と文の並べ方がどう異なっているかに焦点を当てて学んでもらいます。</p> <p>なお学期中間と学期末にメールがきちんとかけるようになっているかどうかの大きなQuizを行います。</p> <p>成績評価の方法 Class participation 30%, Assignment 50%, Quiz 20%</p> <p>教科書 ぎゅっとE</p> <p>参考書 Cambridge Advanced Learner's Dictionary</p> <p>注意事項 ネット接続をすでにしているパソコンが不可欠です。</p>
英語表現セミナー	堀江未来	金(5)	20	<p>本授業の目的およびねらい この授業では、英語圏の大学・大学院への留学を希望する学生を対象に、TOEFL対策及び留学準備としての英語運用能力向上のための取り組みをおこなう。具体的には、TOEFL-iBTにおけるスピーキングとライティングでのスキルアップを目指し、80点（CBT：213、PBT/ITP：550）の取得を目標とする。留学準備としては、希望大学HPからの必要情報の読み取り、エッセイ作成を含む出願手続きを自分で行うための英語能力を身につける。また、プレゼンテーション実習を通じ、自分自身の将来展望について英語で説明できる能力を身につける。</p> <p>履修条件・関連する科目等 すでにTOEFL-iBTで61点（CBT：173、PBT/ITP：500）以上を取得していることが望ましい。未受験の場合はTOEIC 650点、英検準1級以上を目安とするが、5月に学内で行われる予定のTOEFL-iTPを必ず受験すること。</p> <p>授業内容 * 授業はすべて英語で行う。 * 毎回の授業は、留学準備に関する講義またはプレゼンテーションと、TOEFL受験対策実習の時間で構成される。 * 英語での議論やアクティビティに積極的に参加し、受講者間のコミュニケー</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 言 語 表 現 セ ミ ナ ー	堀 江 未 来	金(5)	20	<p>ションを通して、お互いの学習効果を高めようとする姿勢が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コースの目的、内容、課題等についての説明。TOEFL-iBTの紹介。受講生の受講理由や留学希望内容についての議論。 2. TOEFL-iBT模擬試験。プレゼンテーション課題についての説明。 3～4. 海外留学準備に関する講義及びTOEFL実習。 5～14. 受講生によるプレゼンテーション及びTOEFL実習。 (プレゼンテーションはそれぞれ2回ずつ行い、その内容に基づいたレポートを提出する。) 15. 授業のまとめ <p>成績評価方法 プレゼンテーション30%、レポート20%、出席20%、期末テスト30%</p> <p>教科書 必要に応じてプリントを使用する。</p> <p>参考書 必要に応じて授業で紹介する。</p> <p>注意事項 希望者多数の場合は、英語レベル及び受講希望理由(第1回目授業で確認)により、人数を制限する。明確な目的と熱意を持って、主体的に授業に参加すること。</p>